



令和4年度 校長だより

令和4年10月11日(火)

春日の風

No.9

文責 松下 義彦

後期始業式にあたって

みなさん おはようございます。

秋休みが終わり、今日から後期が始まります。

今年、校長先生が立てた学校教育目標は、「社会とつながり、志をもって、未来を切り拓く生徒の育成です。」教室にも掲示してあると思います。

そこで、この目標を達成するために、この後期の始まりにあたり、みなさんをお願いしたいことは、「挑戦する」ということです。

みなさんは多くの可能性を秘めています。そして、努力によって未来への可能性はどこまでも広げることができます。決してその可能性には、限界がありません。だから、いろんな可能性に挑戦してくれる春日中生であって欲しいと校長先生は思っています。

例えば、みなさんの中には、数学が得意な人、あるいは逆に苦手な人もいるでしょう。また、絵を描くことや歌うこと、運動することが得意であったり、苦手だと思っている人もいます。

しかし、私たちは努力すればどんなに苦手なことも克服することができます。そして、得意なことをもっと伸ばすこともできます。

ただ、苦手だから「自分はできない」「努力しようしない」、そのような諦めの気持ちや逃げの気持ちであれば、もちろん可能性は広げることができません。

元プロ野球選手で、ロッテや中日、ジャイアンツ、日本ハムで活躍され、3度の三冠王に輝いた、落合博満さんは次のように言われています。

「信じて投げて打たれるのはいい。信じて投げて打たれたのなら、それは結果。

一番いけないのは、やる前から打たれたらどうしようと考えること。」

校長先生も、経験の中で「できないかも知れない」「たぶんでできないから諦めよう」などと考えたことがたくさんあります。なぜ、そんな気持ちになったのかを考えてみると、それは、「上手に成功しよう」とか「人に恥ずかしくないように見せよう」など、行動することよりも先に、結果を心配することや周りからどう見られるかばかり考えているからだ気づいたことがあります。

そんな時、開き直って「他の人から失敗して、笑われても良いから、まず、できるところまでやってみよう」と考えてやってみると、案外満足できる結果となるが多かったと思っています。

みなさんも、常に挑戦すること、努力することを忘れないで下さい。

そして、自ら未来を切り拓くことができる力を身につけて欲しいと思っています。特に3年生は受験がまさにそうです。自分の目指す進路を切り拓くのは自分自身の力がありません。誰も代わりはできません。「強い意志」と「あきらめない気持ち」、『為せば成る』の精神で残された日々を精一杯頑張ってください。1・2年生のみなさんも勉強や部活動、何でもいいので自分なりの後期の目標をもち、それを達成できるように挑戦を続けてください。

みなさんの後期の頑張りを期待しています。

